

宮古島市総合博物館制作紙芝居 『平良市の三大事業』

與那覇 史香

はじめに

宮古島市総合博物館では、平成 30 年度に紙芝居『平良市の三大事業』を制作し、今年度より博物館見学で訪れる市内の小学 3 年生を対象として、本紙芝居の読み聞かせを行っている。本稿では、紙芝居制作の経緯やテーマ選定理由、紙芝居の効果や活用方法、そして紙芝居の内容を紹介する。

1. 紙芝居制作の経緯

当館では数年前より、教育普及活動に用いるための紙芝居を制作したいとの意見が挙がっており、平成 29 年 11 月、沖縄県内の博物館で紙芝居制作に力を入れている宜野座村立博物館の視察を行った。

宜野座村立博物館では、宜野座村の昔話や伝説、歴史などをテーマにした紙芝居を毎年制作しており、これまでに 35 点の紙芝居が制作されている。これらの紙芝居は、博物館見学や出前講座、史跡巡りなどの際に関連する題材の紙芝居の読み聞かせが行われており、視察時に実際に紙芝居の読み聞かせをしていただいた。

紙芝居を見終えて、率直に「楽しい！おもしろい！」と感じた。文字だけを読むのとは違い、絵があることで容易に情報が頭に入り、さらに読み手が方言を使い、抑揚をつけた読み方をするので、どんどんストーリーに引き込まれていった。また、紙芝居制作にあたり、歴史検証をはじめ、聞き取り調査等が行われており、内容に説得力があり歴史学習にも十分活用できると感じた。

視察を終え、ぜひ本事業を当館にも取り入れたいと考え、次年度の平成 30 年度より紙芝居制作がはじまった。

2. テーマ選定理由

テーマを決める際に重要視したのが、「より利用頻度が高いテーマにすること」、そ



宜野座村立博物館が制作した紙芝居

して「親しみやすく、分かりやすい内容にすること」である。これらを踏まえて一番に思いついたのが、社会科の授業の一環として博物館見学をする小学生に向けたテーマにすることであった。

本市では、小学3年生の社会科の単元に「変わるわたしたちの暮らし」、小学4年生では「昔から今へと続くまちづくり」が組み込まれており、毎年、いくつかの小学校が当館を利用して昔の道具や暮らしについて学んでいる。また、小学4年生では、元平良市長の石原雅太郎が行った、電気、水道、港湾の整備をする「三大事業」についても学んでいる。そこで、テーマを「平良市の三大事業」とし、「電気や水道、港が整備される以前の暮らし」、「三大事業開始」、「三大事業後の暮らし」の3つの構成で、昔の暮らしや三大事業について学べる内容とした。

3. 紙芝居の効果

当館では、今年度より博物館見学で訪れる市内の小学3年生を対象として、本紙芝居の読み聞かせを行っている。これまでの博物館見学では、常設展示室にてパネルや写真、展示品などを利用して昔の暮らしを紹介してきた。紙芝居を導入してからは、紙芝居をみってから常設展示を見学する場合、紙芝居の内容を復習することができ、「宮古で水道ができたのは何年頃前の



本紙芝居の読み聞かせの様子

ことですか？」などの問いかけに対しても、以前までは「20年前！」などの声が上がっていたが、導入後は「1953年！」と具体的な年代を答える子もでてきた。また、常設展示を見学してから紙芝居をみる場合も、見学で学んだことを再確認でき、導入前に比べても子どもたちの興味関心が高まっているのではないかと主観であるが感じている。また、常設展示室では落ち着きのなかった子どもたちが、紙芝居の読み聞かせがはじまると同一人物と思えぬほど静かに聞き入っており、紙芝居のすごさを感じることができる。

4. 紙芝居の活用方法

現在は、博物館見学に訪れる小学生のみへの読み聞かせとなっているが、今後は史跡巡りや出前講座での読み聞かせや、図書館との連携などによって貸出もできたらと考えている。

5. 紙芝居の内容

原文：久貝 かおり（当館嘱託職員）、砂川 奈美子（当館嘱託職員）

絵：伊良部 映里（有限会社アプロ）

(1 景)



【導入】平良市の説明

今、みなさんの暮らしている宮古島市は、2005年、今から15年前※に平良市、城辺町、伊良部町、上野村、下地町の5市町村が合併して誕生しました。今日は、その中の平良市で、約70年前に行われた三大事業についてお話します。

アカショウビン

みなさん、こんにちは。はじめまして。私、アカショウビンといいます！

みなさん、宮古島は好きですか？私は宮古島が大好きで5月ごろになると宮古島に遊びに来ています。今日は、わたしと一緒に平良市の三大事業について勉強してみよう！

三大事業って何だろうね？表紙にヒントがかかっているよ。

「水道・電気・港湾」と書かれているね。どうやら、この3つのことに関することみたい。よし、この三大事業についてタイムスリップしてのぞきにいってみよう！

計 211 文字

※「15年前」は2020（令和2）年から換算した年。

(2 景)



アカショウビン

ここは、今から約 70 年前※の宮古島。のどが渴いたからウリガーで水を飲もう。
あ、ひろし君だ！こんな朝早くに、階段の下の方から何かを運んでいるね。
階段も急で危ないし、重そうだね。何を運んでいるのかな？
ひろし君に聞いてみよう。ひろし君、何をしているの？

ひろし

はあはあ、お、アカショウビン。今、かあちゃんと一緒に朝の水汲みにきている
さ。毎日、朝と夕方に水を汲んで、家まで運ぶわけ。

アカショウビン

朝から大変だね！学校、帰ってきてからもなの？
ひろしくんはえらいね！

ひろし

みーんなも朝から水汲みしているよ。当たり前のことさー。

計 243 文字

※「約 70 年前」は 2020（令和 2）年から換算した年。

(3 景)



アカショウビン

ここが、ひろし君のお家か～。ランプがついているけど、なんだか薄暗いね。
おや？何か話し声が聞こえてきたよ。

お母さん

ひろし～、早くねなさい。

ひろし

は一。でもさー、暗くて宿題が終わらんわけ～。

お母さん

あがい～、明日からは、明るいうちに帰ってきて宿題をやれね。それと明日もランプの掃除をお願いね。

母ちゃんも早く終わらせないとならんね。ランプの油がもったいないからね。

アカショウビン

ランプの燃料は石油なんだ。石油は、臭いがくさいし、ランプに移し替えないといけないから面倒そうだね。火事になる危険もあるし、黒いけむりがでて、ランプの掃除も大変なんだ。

計 251 文字

(4 景)



アカショウビン

ここは平良港。今と比べて港が小さいね。

えーっ！？おじさんたちが馬を小舟から引き上げているよ。どうして？？

おじさんA

そーれ、そーれ。はあ〜。毎回、馬を引き上げるのは一苦労よ。なんとかならんかねえ〜。はあ〜。だりどー（つかれたよ）。

おじさんB

おい！あっちで、荷物がおちたってよお〜。

アカショウビン

わ〜。大きな船は栈橋に横付けできないんだ。だから、小さな舟に馬をのせかえて、港で引き上げているんだね！大きくて重い荷物や動物だとなおさら大変だね。乗り降りするときには、着ているモノが濡れたり、荷物が落ちたり、人が海に落ちたりすることもあるんだって。宮古の人たちは、水道もなくて、電気もない、それに港は整備されていないから大変な思いをしているんだね。でもね、それを解決するために立ち上がった人がいるんだよ。どんな人か見に行ってみよう！

計 359 文字

(5 景)



アカショウビン

お金を受け取っているめがねのおじさんが、この時の平良市長の石原雅太郎（まさたろう）さんだよ。みんなは、親しみをこめて「がたろう」と呼んだんだ。

石原市長は水道・電気・港湾を整備する三大事業を計画したけど、三大事業にはたくさんのお金が必要だったんだ。そこで石原市長はアメリカ民政府の人にお金を出してもらおうようお願いしたよ。

なぜアメリカ民政府の人にお願いしたかというとな、75年前※に太平洋戦争で日本はアメリカに負けて、沖縄はアメリカに占領され、治められていたんだ。

だから、アメリカ民政府の人に三大事業に必要なお金のほとんどを出してもらったんだ！

だけど、それでもお金は足りなくて、工事をする人も少なかったから、市民のみんなまで工事をしたんだよ。

計 318 文字

※「75年前」は2020（令和2）年から換算した年。

(6 景)



おじさん

あっがいたんでい！掘っても掘ってもおわらんさ。

おばさん

きゅーまい、あつつあまい、わいーていどー（今日も明日もがんばろう）。

アカショウビン

いよいよ水道工事がはじまったね。穴を掘るのも、掘った石を運ぶのも人の力なんだね。ひろし君もお手伝いしているんだ？

ひろし

僕は大きな石を割って運ぶ手伝いをしているよ。毎日だいで大変さ。

アカショウビン

お金もないし人手も足りなくて朝早くからくわやスコップ、ツルハシを自分の家から持ち寄っての作業をしているんだ。市民総出の大仕事なんだね。

計 195 文字

(7 景)



ひろし

やったー！水だ！水がでたー！これで水くみしなくていいさいが。

おじいさん

これも石原市長のおかげだね。

アカショウビン

水道がとうとう完成したみたいだね。1953年、今から67年前※のことだよ。

最初に設けられたのはみんなが一緒になって使う協同水栓というもので、市内に30ヶ所作られたんだよ。でもね、24時間いつでも水を使えるわけではなく、係の人がいて、水が使える時間を制限していたんだよ。それに、久松や、西原、鏡原などはまだ井戸水や雨水に頼る生活が続いていたんだ。そして徐々に整備されていき、それぞれのお家に水道が引かれるようになったんだって。

計 252 文字

※「67年前」は2020（令和2）年から換算した年。

(8 景)



ひろし

わぁ～。明るくなった。みんなの顔もよく見えるね。

アカショウビン

ひろし君の家に電気が通ったね。平良市内が明るくなって、みんなの家からにぎやかな声が聞こえるようになったね。

電気工事は、1951年、今から69年前※に始まったよ。次の年には、発電所が大きくなって、新しい発電機が取り付けられて、平良市の中心地に電気が通るようになったんだって。

今、みんなの生活の中に当たり前にある、冷蔵庫、テレビ、洗濯機などの電化製品も、この後から徐々に使われるようになったんだよ。

計 217 文字

※「69年前」は2020（令和2）年から換算した年。

(9 景)



がらがらがらどぼーん、どっぼん、どっぼん。（石投入の音）

アカショウビン

平良港の湾に石を投入して埋め立て工事をしているね。

これは、長さ 227 メートル、幅 30 メートルもある栈橋を作っているんだって。

栈橋ができれば、一千トン級の大きな船も横づけできるし、客の乗り降りや荷物の積み降ろしも便利になるね。

石を持ってきたらお金になるから、おじさんたちは、石を集めて、港に持ってきて埋めているんだって。

陸にある石だけじゃなくて、海にある石も船で拾って使ったんだよ。海の石を運ぶときは、エンジンがついている船じゃないと重くて運べなかったんだって。

計 250 文字

(10 景)



ポー。ポー。ポー。（汽笛のおと）

アカショウビン

1954年、今から66年前※に平良港の整備が終わったよ。
とうとう港が完成したんだね！大きな船が停まっているね。
人もモノもいっぱい。うわあ～。カゴいっぱいのグルクンかな。
これで、沖縄本島や日本本土、八重山への人や物の行き来がすごく便利になったんだね。

計 132 文字

※「66年前」は2020（令和2）年から換算した年。

(11 景)



「ひやさっさ、ひやさっさ」、「ぷからすさ～ぷからすさ～」

アカショウビン

水道も電気も港も整備されて、みんな大喜びだね！ひろし君もよかったね。

ひろし

そーさ。水道の蛇口をひねると水がでてくるし、いつでも電気をつけるとよく見えるし、なーんかあたたかいわけ。港も大勢の人が乗り降りしてにぎわっていたよ。

アカショウビン

そっか、よかったね！

（間をあけて）三大事業は、大変な思いをしている平良市民のために、当時の石原雅太郎（まさたろう）市長が、電気、水道、港湾を平良市民のみんなの力を合わせて整備した事業だったんだね。

今みんなの当たり前の暮らしは、昔の人たちのおかげで成り立っているんだね。

あ、クイチャーがはじまった。踊ってくるね～。ひやさっさ、ひやさっさ。

計 281 文字

おわりに

本紙芝居は、今年度より読み聞かせをはじめており、まだまだ読み手の練習不足もあるが、真剣な眼差しで聞き入る子どもたちの表情を見ると、制作して正解だったと感じる。子どもたちに楽しみながら平良市の三大事業や昔のくらしを学んでもらえるよう、今後とも尽力していきたい。

謝辞

紙芝居制作にあたりご協力いただきました、宜野座村立博物館の田里一寿様、山川須真子様、調査にあたりご協力いただきました親泊宗二様をはじめ関係者の皆様にこの場をかりて心より感謝申し上げます。